

小規模事業場における主体的産業保健活動 スパイラルアップのための継続的支援方法と効果検証

主任研究者	茨城産業保健推進センター特別相談員	池田 智子
共同研究者	茨城産業保健推進センター所長	小林 敏郎
	茨城産業保健推進センター基幹相談員	河島 美枝子
	茨城産業保健推進センター特別相談員	武田 繁夫
	茨城産業保健推進センター基幹相談員	伊藤 進一
	地域産業保健センターコーディネーター	
	和田 弘, 倉持 勝男, 大西 慶造, 根来 健造,	
	奥田 恭子	
	開業保健師	高嶋 靖子
	東京医療保健大学助教	武澤 千尋

1 はじめに

我々の前年度の研究は、事業主と従業員が自らの職場の健康問題を正しく把握し、問題の抽出、産業保健活動の選択、実施、評価を主体的に行えるような活動を、地域産業保健センターのコーディネーターと保健師が支援して行く方法を開発してきた。さらに本年度は、これらの小規模事業場がより自立して産業保健活動を定着できるようになることを目的として、継続支援の方法を開発し、スパイラルアップ効果を測定した。

2 方法

1) 支援活動

前年度の研究報告の上、本年度も引き続き協力の得られた、1県地域産業保健センター全9カ所のうち6カ所のコーディネーター6名と、地域産業保健センター嘱託保健師及び茨城産業保健推進センター相談員保健師、大学院生保健師ら計5名が、前年度に引き続き協力の得られた小規模事業場16カ所と、新規に協力の得られた事業場2カ所に参加型保健活動を提供した。

2) 記録の分析

全18事業場へのアプローチの記録を録音に撮り、分析した。

3) スパイラルアップ効果の分析

従業員への自記式アンケートによる効果評価を、前年度と本年度の各活動前後に行い、分析した。

3 結果と考察

事業場が自立して活動を継続して行けるスパイラルアップのための支援過程を分析した結果8段階が抽出された。各段階における支援過程と解説を図1に示す。

効果評価においては、保健活動を通して仕事のコントロール、外在的報酬、上司の支援が高められ、ワーク・エンゲイジメントの上昇につながり、更には仕事のパフォーマンスの向上にも結びついたことが示唆された。生活習慣については、継続事業場において、喫煙本数の減少傾向（10%水準で有意）が認められた。

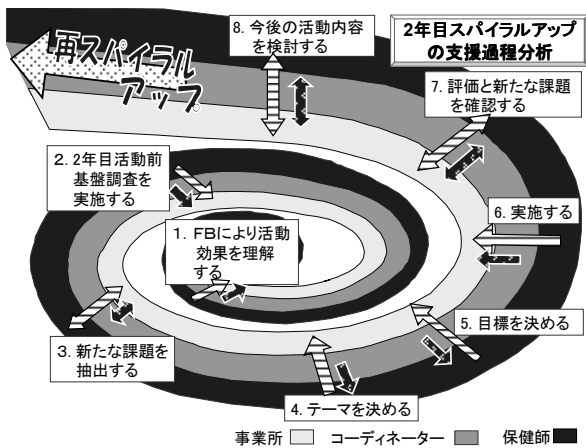
4 研究結果の活用方法

1) 学会発表

ICOH-WOPS conference Amsterdam 2010, ICOHN&ACOHN joint conference Yokohama 2010, メコンデルタ10周年記念国際シンポジウム Can Tho 2010, 日本産業衛生学会 島根 2010, 日本産業精神保健学会 金沢 2010, 日本産業ストレス学会 神戸 2011にて発表。

2) 活動方法と効果評価のシステム化

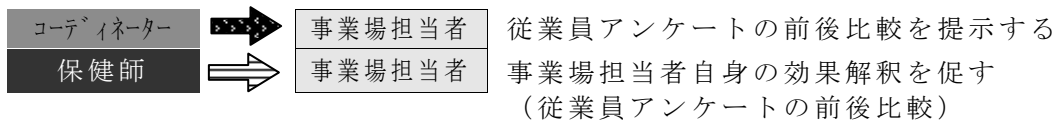
活動方法と効果評価方法をシステム化して、インターネットで公開する予定。



【図1】スパイラルアップのための支援過程の分析

< 解説 >

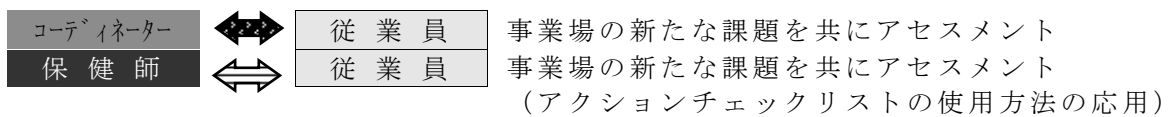
1. F Bにより活動効果を理解する



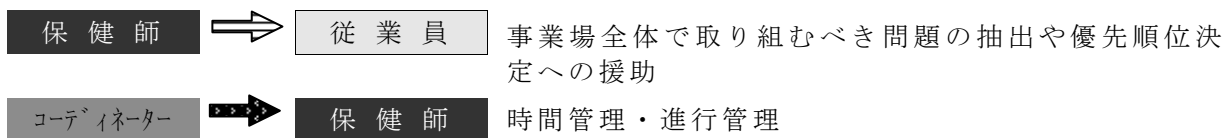
2. 2年目活動前基盤調査を実施



3. 新たな課題を抽出する



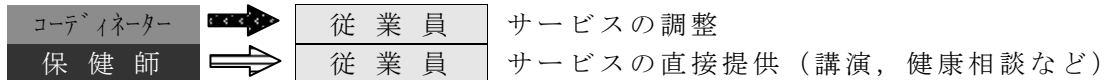
4. テーマを決める



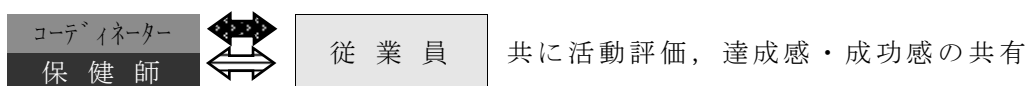
5. 目標を決める



6. 実施する



7. 評価と新たな課題を確認する



8. 今後の活動内容を検討する

